

ファミリーマート 「メディカルフーズ」取扱い店舗を拡大

ファミリーマートは病院内および病院近隣のファミリーマート店舗にて、塩分量やたんぱく量など、食事に配慮が必要な方向けの食品「メディカルフーズ（療養食）」の専用売場（常温・冷凍）を設置し、「メディカルフーズ」取扱い店舗を本格的に拡大していく。

現在、同社では病院内及および病院近隣を中心とした14店舗にて「メディカルフーズ」を販売中。今回の本格展開により順次取扱い店舗数を拡大し、2017年度までに200店に拡大する計画である。

今回、「メディカルフーズ」取扱い店舗拡大の背景としては、高齢化が進む中、糖尿病や高血圧など生活習慣病患者数は増加の一途をたどっていることや、団塊の世代が75歳以上となる2025年には国民の5人に1人が75歳以上の高齢者となり、在宅療養患者数が増加することが予想される。同社では今後、身近なコンビニエンスストアが在宅療養の受け皿となる必要性が高まると考えている。

ファミリーマート店舗で取扱うメディカルフーズは、「メイバランス Mini カップストロベリー味」（本体230円）や「マービー液状950」（本体899円）など合計約180種類で、専用の売場を設置して展開する。専用棚でのドライ商品の品揃えは80アイテム、冷凍ケースで10アイテムを品揃えする。なお、取り扱うメディカルフーズはNB商品のみでの展開であり、現段階ではPB商品の開発計画はない。

また、同社ではメディカルフーズの本格展開に際し、「日本栄養士会」と「東京都栄養士会」に賛助会員として加盟するとともに、本年9月には、農林水産省が普及・推進に取り組む新しい介護食品「スマイルケア食」のマーク利用の許諾を得ている。介護食品においては在宅療養者、地域住民にわかりやすいように「スマイルケア食」をデザインした販促

物を掲出する。

近年、他社の健康系商品との差別化として、同社新規事業開発本部 医療・介護部長の福井弘彦氏は「当社での取り組みは病院や医師と連携していることが特長。購入されるお客様のほとんどは病院から指導を受けたお客様であり、特定のターゲットへの取り組みといえる。今後は宅配等のサービスも検討していきたい」とした。

